

特別インタビュー

今年5月に行われる8回目の太平洋・島サミットは、前回2015年に続き福島県いわき市で開催される。前回、福島県初の国際首脳会議受け入れに奔走したいわき市では、2017年5月には実行委員会を結成、サミットの成功に向けて市民参加の歓迎行事を準備している。今号ではその陣頭指揮に当たっている清水敏男いわき市長に、島サミットへの思いと今後の交流計画などについて伺った。(聞き手：小川和美／芳賀達也)

清水市長は前回2015年の島サミットでもいわき市長として受け入れをなさいました。まず最初にその時の印象をお聞かせください。

太平洋・島サミットに関して、いわき市は、第6回(2012年 沖縄で開催)の時から誘致活動をしておりまして、自分が市長に就任した後の第7回島サミットがいわき市開催だったのは、たいへん光栄でした。各国首脳に喜んでいただけるようにおもてなしをしたいと準備を進めていたのですが、首脳の皆さんはとてもフレンドリーな方々が多いというのが、第一印象でした。子供たちの歓迎行事その他、沢山あったのですが、なんと言うのですかね、警備のことなどもあまり気になさらず、気軽に子供たちに駆け寄って一緒に写真を撮ったりなさるわけですよ(笑)。子供たちも大喜びでした。そういうところが、とても印象深かったですね。

それから自分は、どちらかというと首脳のご夫人方のプログラム担当で、安倍総理の昭恵夫人と一緒におもてなしをするような形でした。金澤翔子さんというダウン症の書道家がいるのですが、その翔子さんとの交流が、非常に印象的でした。涙して感動していたご夫人方もいらっしゃいましたし……

翔子さんの書道パフォーマンスで、感動されたのでしょうか？

書道パフォーマンスもそうですが、懇談のときに金澤さんが大好きなマイケルジャクソンの踊りを突然見せてくれたのです。ムーンウォークみたいな。首脳夫人の前でその踊りを披露するハプニングがあって、それを見た皆さんが感動されていました。

福島県いわき市長
清水敏男



いわき市にはスパリゾート ハワイアンズがあって、それまでも島々のおつきあいはあったと思いますが、島サミットがきっかけとなって交流の輪が広がったということもありますか？

そうですね、ハワイアンズさんがメイン会場になり、夜の食事のあとに島サミットバージョンのショーがあったのです。首脳らが来られるので、事前に各国の踊りを勉強されていたようです。で、次はどこの国のダンスかな？と思わせるような演出になっていて、自分はよく分からなかったのですが、首脳の皆さんは踊りを見て「あ、これはウチの何々ダンスだ！」みたいな驚き方をされていました。料理長もどんな料理を出したら良いのか、各国を歩いて事前勉強をされていました。そういう意味では、その後につながって行くのではないかと思います。

市民の中でも、島との繋がりを広げていきたいとの気持ちから、幾つかの交流が始まっているともお聞きしています。

島サミット後に、ハワイアンズの井上社長がサモア名誉領事になられ、オリンピック/ラグビーワールドカップに際しては、いわき市がサモアのホストタウンになりました。そこで、サモアが出場する場合は、いわきで合宿をして本戦に臨むという協定を結びました。そのような縁で、2017年8月にいわきの高校生をサモアに派遣し、お茶、そして花が好きだとのことでしたので、茶



夫人プログラムで金澤翔子博物館を訪問

道・華道による交流をしてきました。「すごいおもてなしを受けた」と高校生も感動していました。それから2018年には、島サミットと同じタイミングでサモアの高校生が来て、いわきの高校生とラグビーをやるプログラムが今決まっています。また、ハワイアンズのお土産売り場にサモアコーナーができ、さらにノニジュースなどのサモア産物の販売も市内3カ所で始まりました。少しずつですが、人の交流だけではなく、「モノの交流」のようなビジネスにもつながって行けば良いなと思っています。

サモアだけではなく、たとえばいわきの高校生がパラオに行ったり、市内のNPO団体がミクロネシア連邦と交流したり、こうした市民レベルの交流が徐々に太平洋諸国へと広がり深まっています。これらを、とても良い傾向であると思っています。

市民レベルでの交流が進む中で、いわき市にとっては2回目の島サミットを迎えるわけですね。前回はなんといっても震災復興、そして「元気ないわき」をアピールされたと思うのですが、今回はどんな点に焦点を当てて地元プログラムを組まれる計画ですか。

三つあります。一つは2回連続での開催なので、PALM 7の時に採択された7分野の検証といいますが、課題解決につながるようなプログラムを用意したいと思います。二つ目は、やはり復興の発信です。復興の姿を首脳の皆さんに見ていただくと同時に内外にも発信して、それがイコール風評の払拭につながったり、都市イメージの向上につなげたい、と考えています。そして三つ目としては、交流を通じて子供たちの国際感覚を磨く、あるいは外国人旅行者に対する市民のおもてなし意識を醸成する、そういったことにつながるプログラムにしたい。この3点を考えながら、お迎えしたいと思っています。

市内でも、いよいよ5月に向けての機運が高まっているとの手応えを感じていらっしゃいますか？

正直、これからです。前回開催して、再びという意識の中で盛り上げていかなければ、との思いであります。前回とても好評だった高校生の応援隊を今回も組織して、いろいろなイベントに参加していただくとの計画があります。また、小中学校で、それぞれの国を応援する旗を作っていただくプログラムも進めているところです。これについては前回、各国首脳の皆さんが非常に喜んでくださいました。手作り感満載で、見れば苦勞しながら作ってくれたのだというのが、たぶん首脳の皆さんも分かったのでしょうか。子供たちがその国のことを勉強する良い機会にもなりますし、それが国際理解の向上にもつながると思います。また市内にはフラッグとか看板とか、これから徐々に設置しながら気運を盛り上げていきたと考えております。

島サミットは大きなイベントですが、島々との関係はそれで終わりではないと思います。先走った質問ですが、「島サミット後」を見据えた、長期的なビジョンについて、最後にお聞かせください。

先にも述べましたが直近でいうと、日本でラグビーワールドカップとオリンピックという二つの国際的なイベントがあります。いわき市はサモアのホストタウンになりましたから、この点からラグビーを通じたスポーツ交流を積極的に深めて行きたい。また小中高校生を中心に、スポーツだけに限らないで、互いの歴史とか文化を学びあう文化交流的な事業が進められるべきでしょう。こうしたサミット参加国との交流事業を民間主導で進め、それらに対して市としても積極的に支援していく、こういう形に持って行ければ理想的であると考えております。

これから準備が大変だと思いますが、ぜひ第8回の島サミットを成功に導かれますよう、そして更にその先、島々との友好関係発展に大きな力を果たしていただけますよう、祈念しております。今日は貴重なお時間を、どうもありがとうございました。

前回にもまして、各国首脳/配偶者の方々あるいは来市される方々に喜んでいただけるようなサミットにして行かねばと考えています。有り難うございました。

2017年12月1日いわき市にて；文責/構成：太平洋協会